



学校だより

良いところを知る大切さ

先日、5年生と自然学校に行ってきました。今回こうべ小で3回目になりますが、引率する子供は違うので、自然学校中に思ったり感じたりすることは、毎年、不思議に違います。

今年の5年生が自分達で考えためあては「全集中、自然学校の呼吸」(壺の型) 自然とふれ合う (弐の型) 上を目指す (参の型) 挑戦 (肆の型) 協力 (伍の型) 仲間と一緒にLet's go 5!!!です。私は、めあての中から「協力」がカギになるなど考えました。出発式で、「協力を他の言葉で言いかえると？」と尋ねると、「助け合う」「友達のことを思う」等が返ってきました。「思いやり、よりそう、助け合う」ことで友達の事を考え、「してあげるしあわせ」を考え実行し、「友達から仲間」になろうと話し、自然学校が始まりました。

初めのプログラムは、「魚つかみ・火おこし」でした。例年、初めのプログラムでは、友達同士が言い合いになったりして、まとまらないことが多いのですが、捕れない友達に寄り添い助ける姿、火おこしでは必死に助け合い協力する姿がありました。「この子達、言われたことを素直に実践できるな」と学校では気付けなかった姿に嬉しくなりました。2日目の登山では、4時間かけて鉢伏山(1221m)に登頂しました。班がバラバラになることなく、しんどそうな仲間に絶えず声をかけ、やさしく寄り添う姿を見ることができました。ファイヤーセレモニーでは、楽しむ時は楽しむ、静かにするときには、さっと静かになる等、メリハリのある姿にも感心しました。部屋の片付けや集合する時間を守ることも最初は難しかったですが、段々とできるようになりました。夜の集いでは、全員が手を挙げ、1日のふり返りを堂々と発表する姿に感動しました。

子供たちの「良いところを知る」ことにより、教師の褒める言葉が自然と増えていきます。子供たちは褒められたことにより、自信が付き、達成感が得られ、どんどん良い顔になっていきました。トラブルもたくさんありましたが、教師は子供たちの言い分を丁寧に聴き、子供たちが納得するまで指導をしていました。学校の学習だけでは得られない、体験的な学習の良さが5年生にはピッタリとあてはまったように思いました。自然学校を通して、めあてを達成し、成長した5年生には、今後も集団が「友達から仲間へ」と変わっていくことを目指し、こうべ小学校の手本となる高学年になっていくことを願っています。

最後になりましたが、各学年の「ランランフェスティバル」「ミュージックフェスティバル」にも是非とも学校にお越しいただき、子供たちの良いところをたくさん見つけ、たくさん褒めて頂ければ幸いです。

うち 知ってんねん

島田 陽子

あの子 かなわんねん

かくれてて おどかしやるし

そうじは なまけやるし

わるさばつかし しやんねん

そやけど

よわい子オには やさしいねん

うち 知ってんねん

あの子 かなわんねん

うちのくつ かくしやるし

ノートは のぞきやるし

わるさばつかし しやんねん

そやけど

ほかの子オには せえへんねん

うち 知ってんねん

そやねん

うちのこと かまいたいねん

うち 知ってんねん